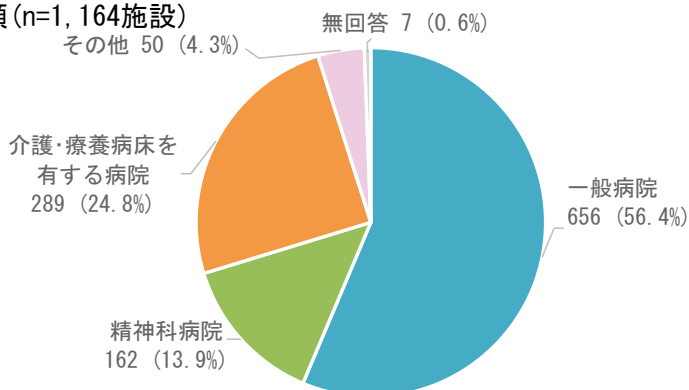


「栄養剤投与目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析」
に関するアンケート集計結果

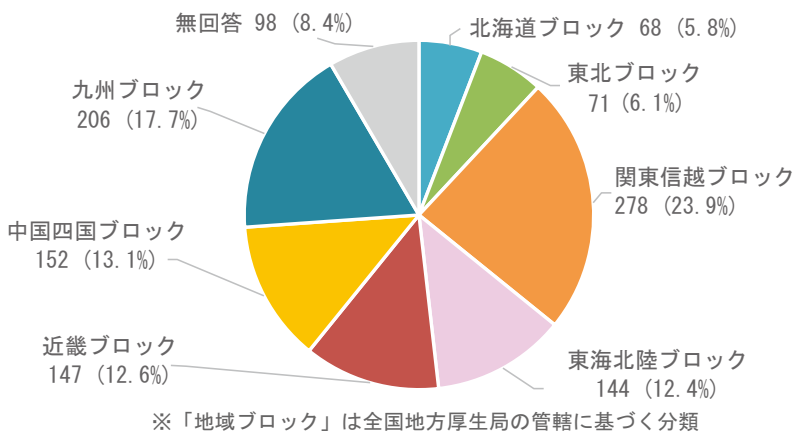
調査期間：2019年2月6日～3月29日
調査対象：全国の病院 8,340施設
有効回答数：1,164 割合 14.0%

施設について

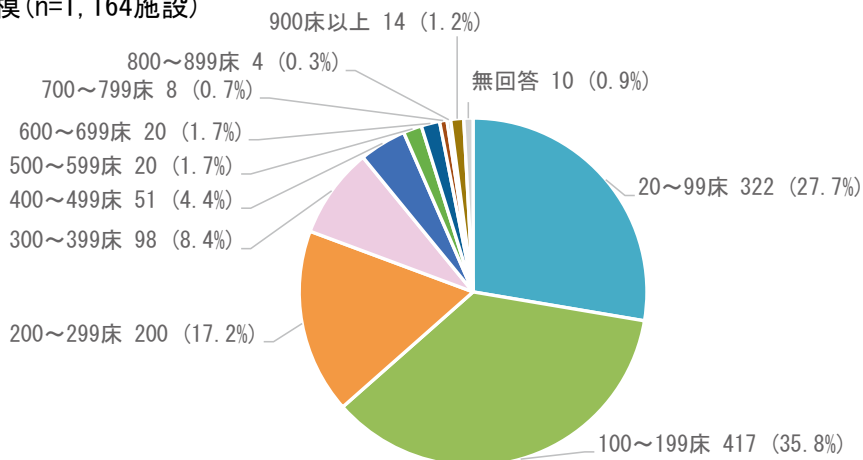
■ 医療機関の種類 (n=1,164施設)



■ 施設が所在する地域ブロック※ (n=1,164施設)

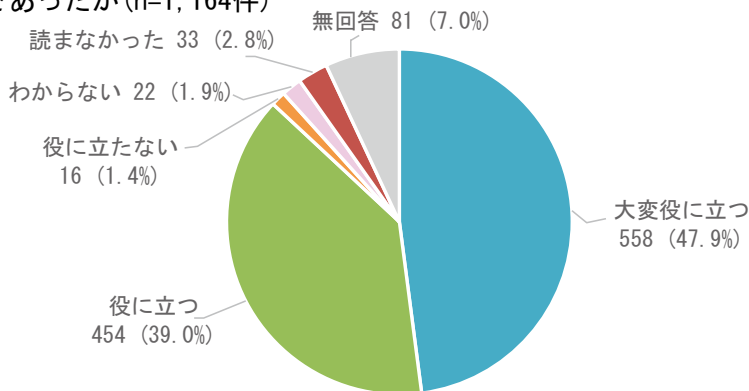


■ 病床規模 (n=1,164施設)

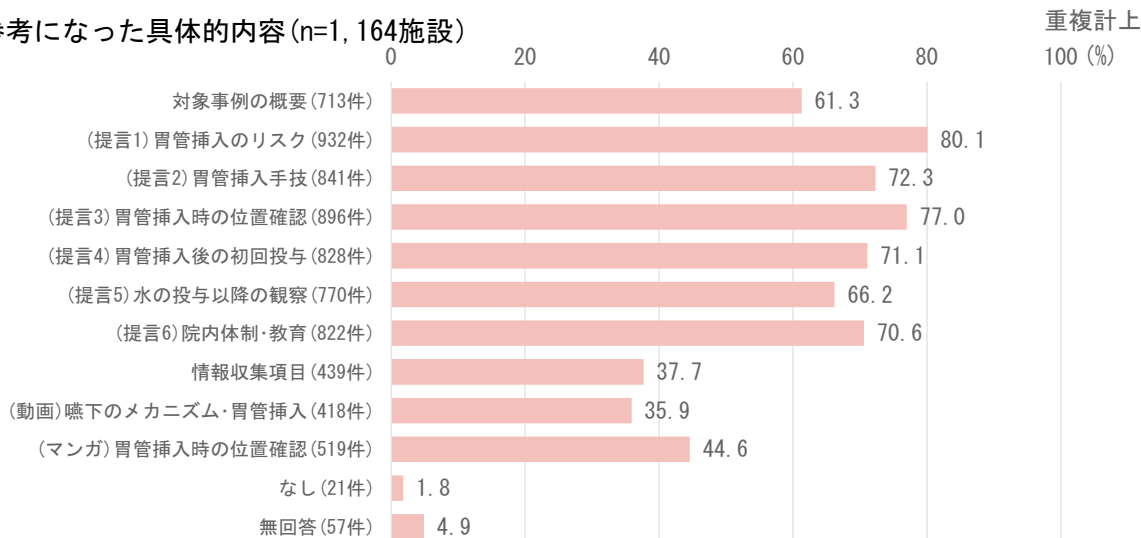


有用性

■ 役立つものであったか (n=1,164件)

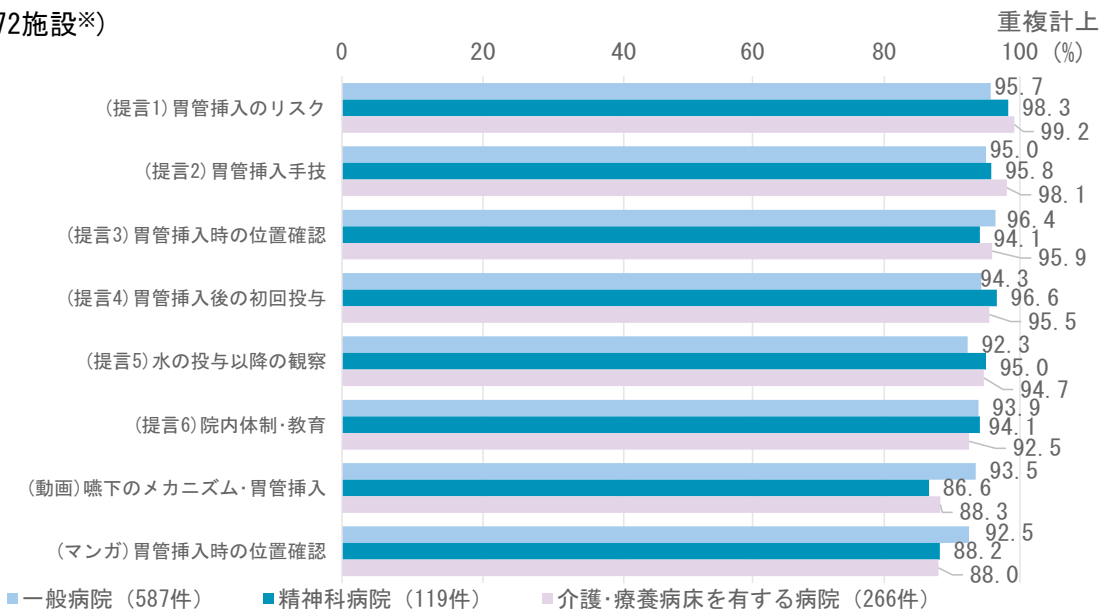


■ 参考になった具体的内容 (n=1,164施設)



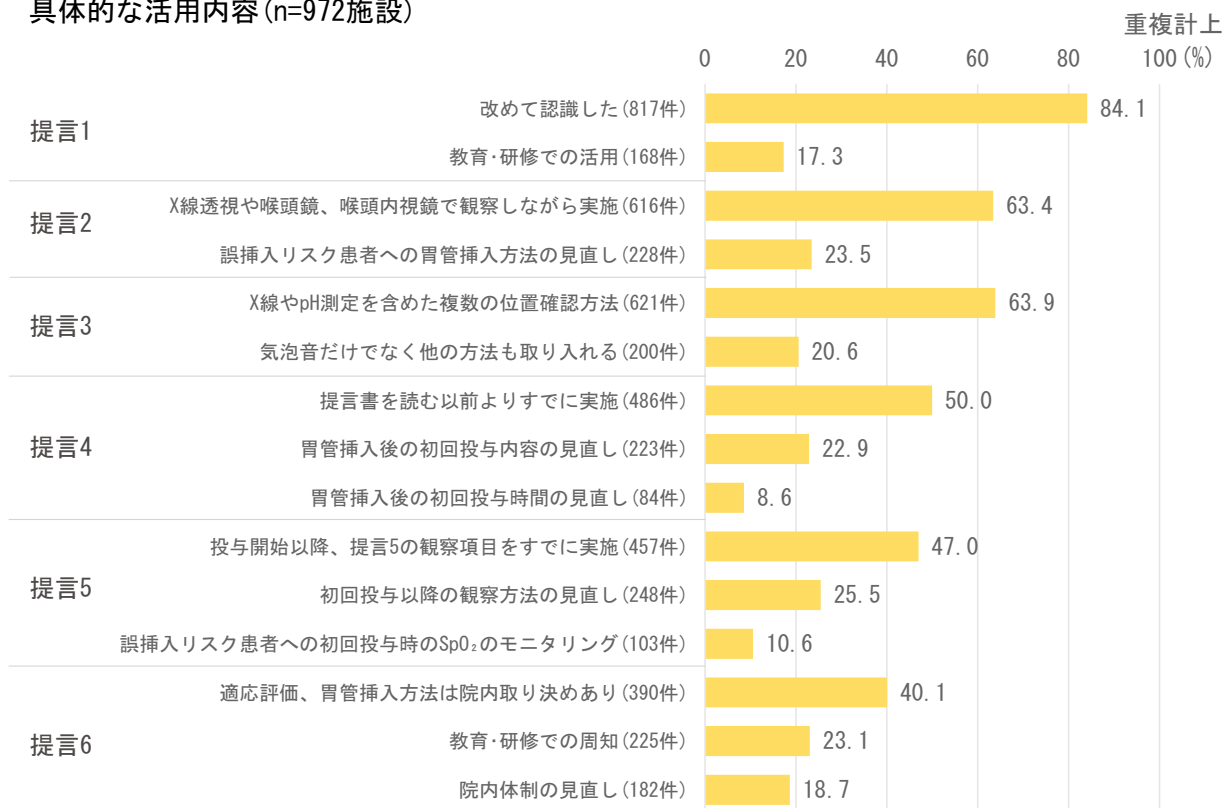
活用状況

■ 胃管挿入を実施している一般病院・精神科病院・介護・療養病床を有する病院における活用 (n=972施設※)



※医療機関の種類が「その他」「無回答」であった57施設を除いて集計した。

■胃管挿入を実施している一般病院・精神科病院・介護・療養病床を有する病院における具体的な活用内容 (n=972施設)

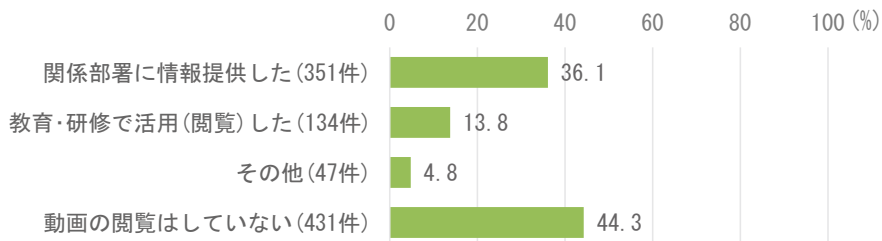


■自由記載のまとめ

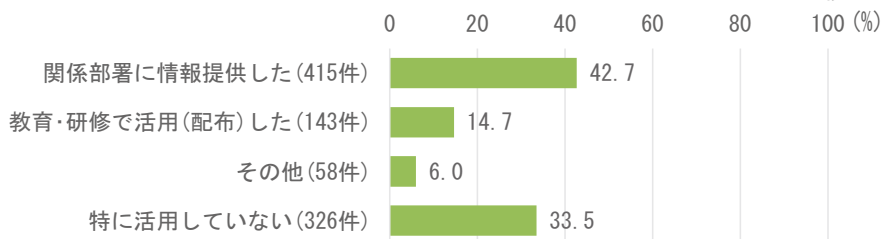
提言1	○セーフティマネージャー委員会にて周知した。 ○委員会で呼びかけ、各部署へ配布した。
提言2	○リスクが高い患者への挿入方法を具体的に明文化する。 ○ガイドワイヤ付きのチューブに関して、医師がX線透視下で施行するようルールを決めた。 ○挿入困難時は無理せず医師に確認。同日挿入しないことや、点滴に切り替える。
提言3	○今後pH確認等含めた複数方法での確認を検討する。 ○気泡音の確認と胃液pH測定との両方を確認できなければ、医師に報告するフローにした。
提言4	○初回投与は水を先に投与することは周知しているが、必ずではない。 ○しっかりX線で確認し、主治医の許可が出てから、初回より栄養剤投与している。
提言5	○SpO ₂ のモニタリングを手順の中に入れていないため、今後手順の変更を行う。 ○呼吸状態の変化等は観察しているが、SpO ₂ のモニタリングはしていない。 ○誤挿入のリスクが高い患者について、委員会内でマニュアルに追加するか検討する。
提言6	○院内の取り決めがないため、今後、院内体制については手順を作成する。 ○胃管カテーテルを挿入するのは医師である。医師によって確認方法が違うので統一したい。

■胃管挿入を実施している一般病院・精神科病院・介護・療養病床を有する病院における動画・マンガの活用状況 (n=972施設)

動画「嚥下のメカニズム・胃管挿入について～胃管誤挿入を防ぐために～」 重複計上



マンガ「胃管挿入時の位置確認～気泡音の聴取だけでは不確実～」 重複計上



■自由記載のまとめ

- 動画やマンガは教育時に活用している。
- 動画はそのまま研修に使用でき大変良かった。
- 動画とマンガを特に活用できていなかったが、今後院内ニュースで活用する予定である。

要望・感想のまとめ

■要望

- 毎回、提言はとても参考になるため、今後もさまざまな事例でお願いしたい。
- 再認識できる。すべきことをしていないことは多々あるので、今後も指導してほしい。

■感想

- マニュアルを再整備するのに役立った。
- 長期に胃管挿入している患者が多く、胃管を挿入するリスクへの自覚が薄れていた気がする。再度見直す機会を得られて良かった。
- 記載されていることを以前から実施していても、必要性を再認識することは教育上非常に役立つ。
- 提言書は読みやすく感謝している。当院の医療安全対策委員会で、提言に沿って点検・検討している。特に、アナフィラキシーと今回の胃管はタイムリーであり、すぐ活用した。
- 動画とマンガについて、今後院内ニュースで活用したい。